



持続的な、
社会と世界を。

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan

近畿農政局業務説明会

農林水産省 近畿農政局



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

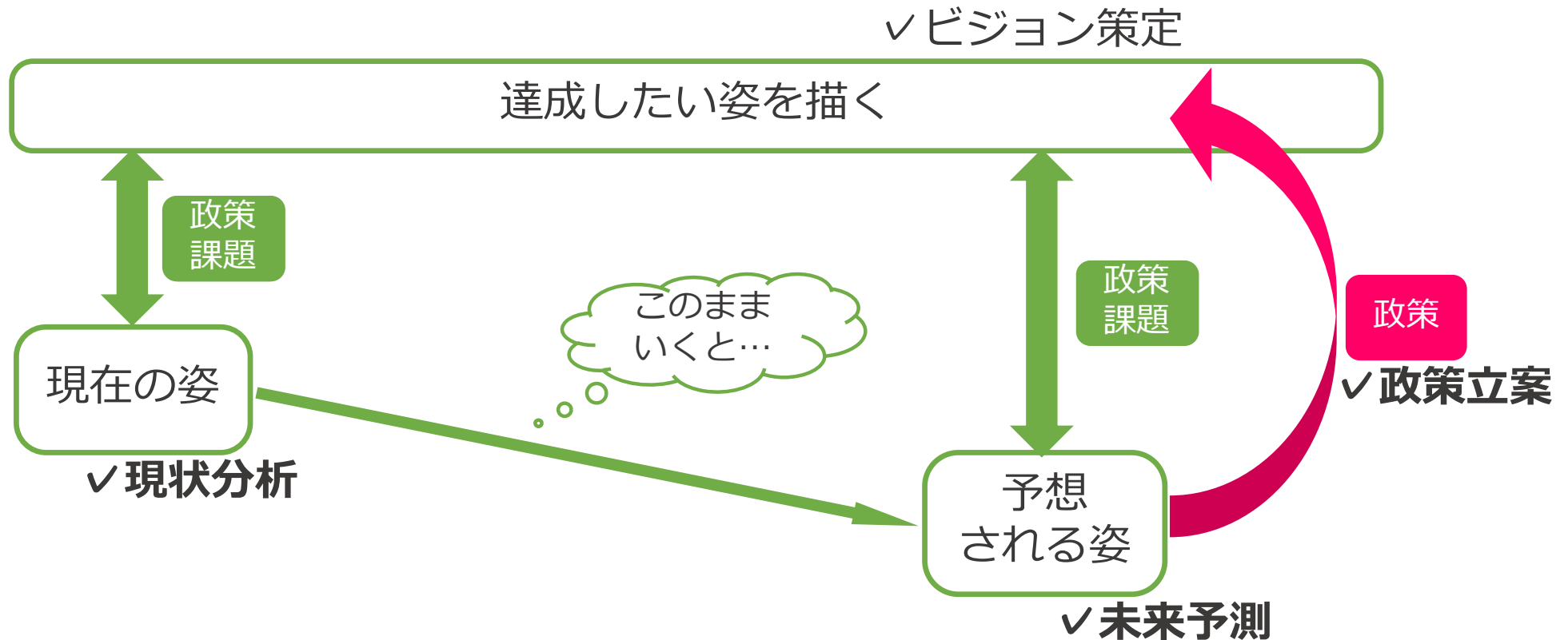
03

近畿農政局の職場環境

04

近畿農政局経験者職員紹介

国家公務員とは？



- 現状分析→ビジョン策定→政策課題の特定・未来予測→政策立案→合意形成→政策実施
- いわゆる「社会を良くするしごと」
ただし、地方自治体や民間企業も、社会を良くするために働いているのは同じ。
違いは、**1. 使えるツール（法律、予算、税制）**
2. 「日本全体」の利益を考える役割



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

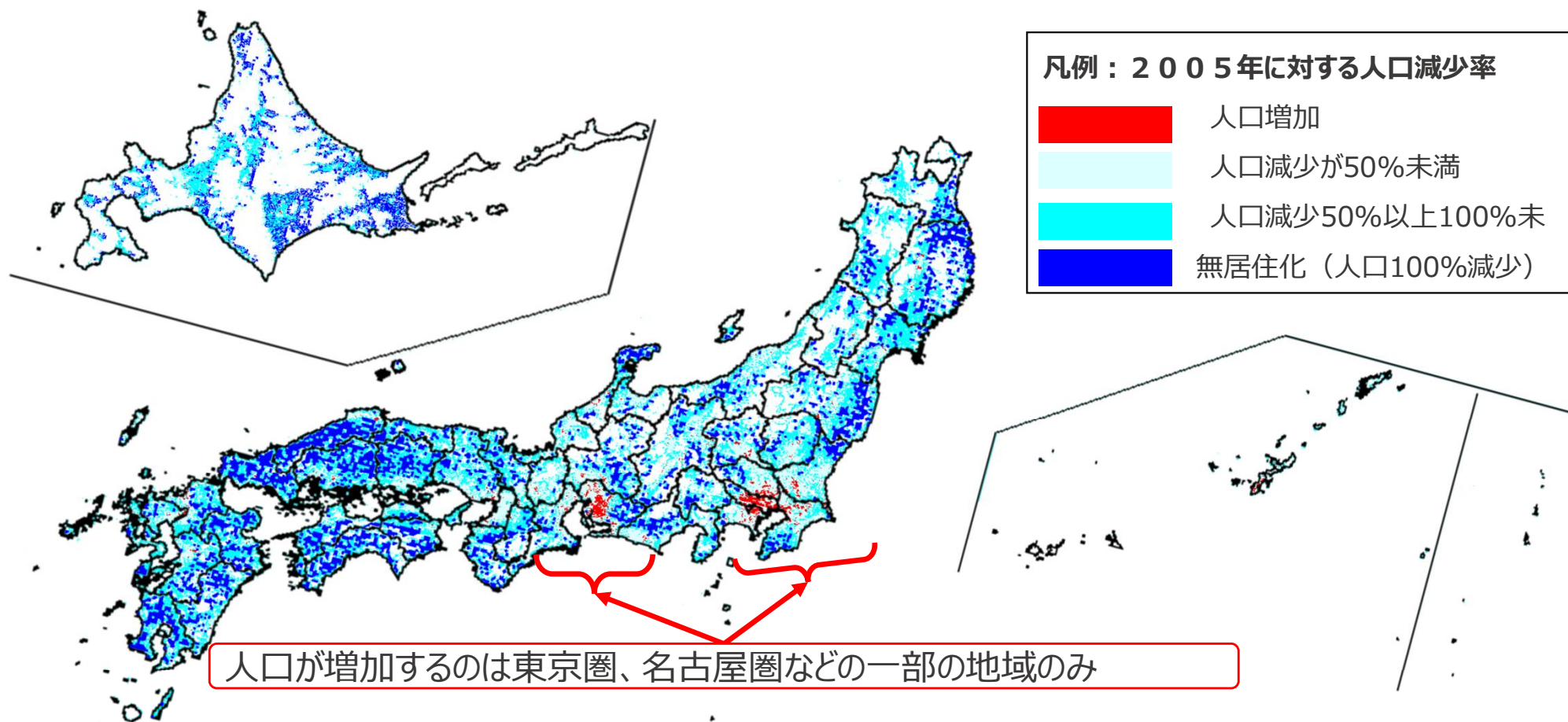
近畿農政局の職場環境

04

近畿農政局経験者職員紹介

日本の課題：人口減少と過疎化

**大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出
+ 低出生率**が日本全体の人口減少につながっている。



資料： H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。

・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

・人口減少、過疎化は地方だけではなく**日本全体の課題**

【GDP世界4位】

過疎化・人口減少の加速化による**消費・経済力の低下**
(日本の国際的プレゼンス低下)

食料供給機能の低下

※農業産出額のうち都市農業によって生産されるものは全国の1.8%（推計）。

多面的機能の低下

※食料供給以外の多面にわたる機能（洪水・土砂崩れ防止などの国土保全機能）

※農業・農村の多面的機能は貨幣価値で算出可能なものだけで年間約8兆円

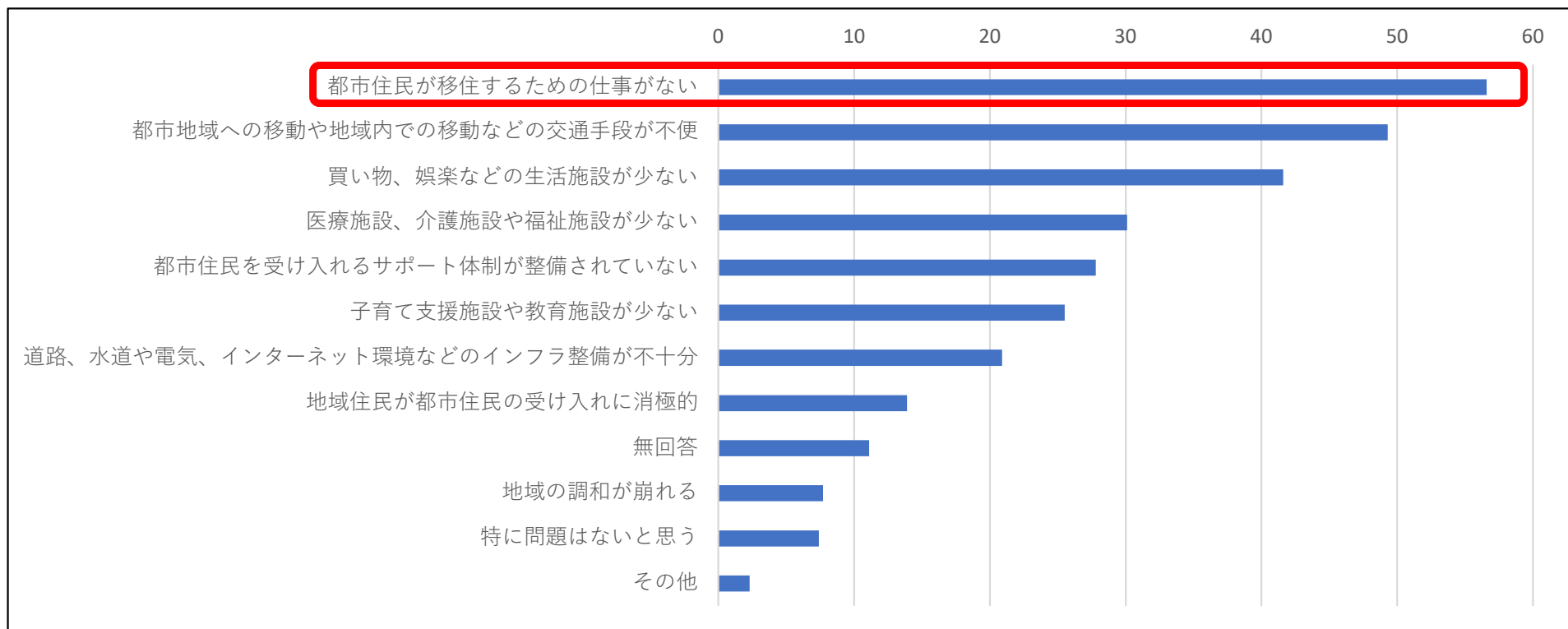
ライフスタイルの制約
→暮らせる田舎、
観光資源の喪失

(地方出身者) 自分が生まれ育った故郷がなくなる喪失感

多様な文化の喪失
歴史・自然環境をベースに築いてきた文化的多様性の喪失

農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

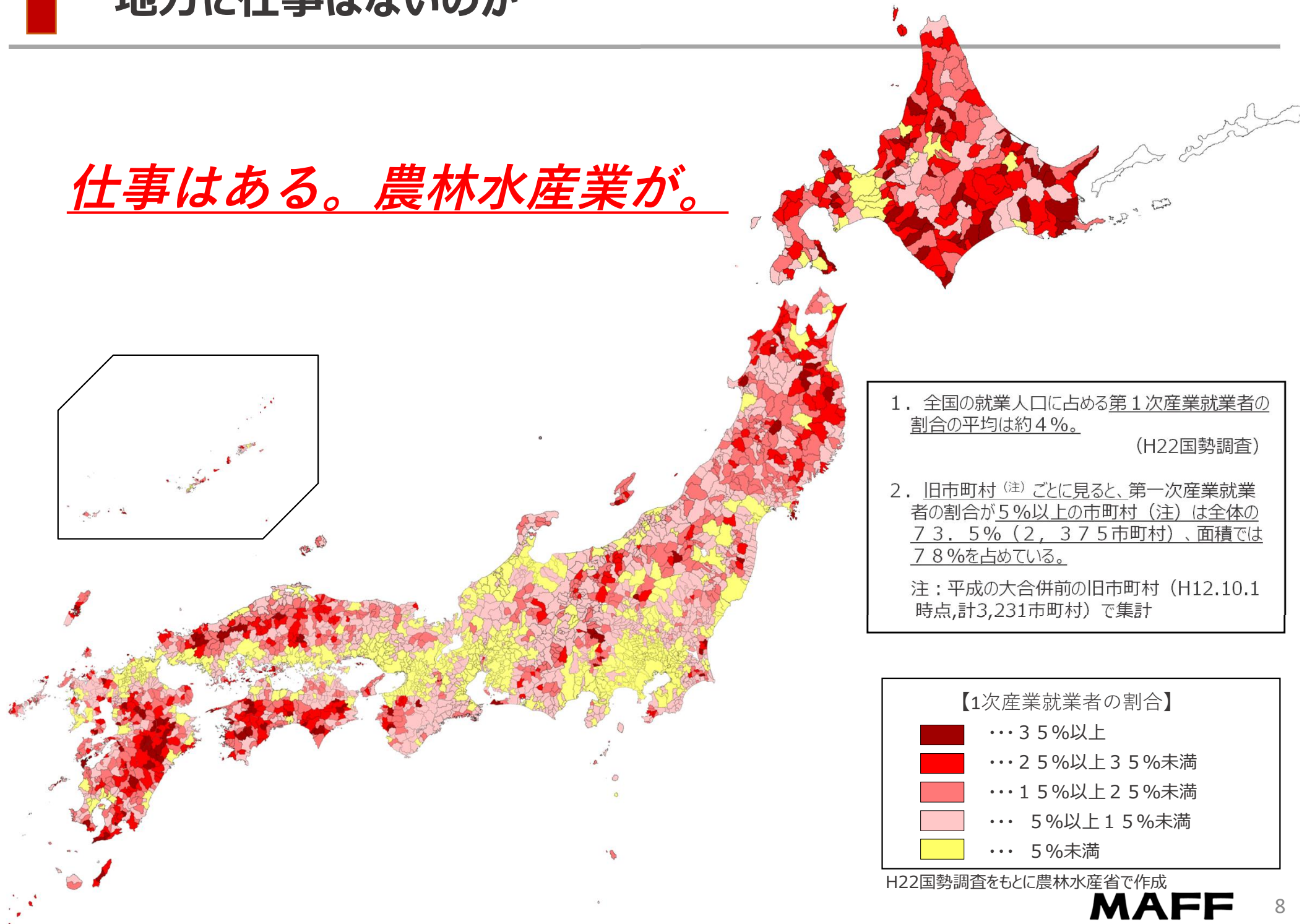
都市住民が農山漁村地域に移住する際の問題点



※資料：令和3年年農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※複数回答可、総回答者数611人

地方に仕事はないのか

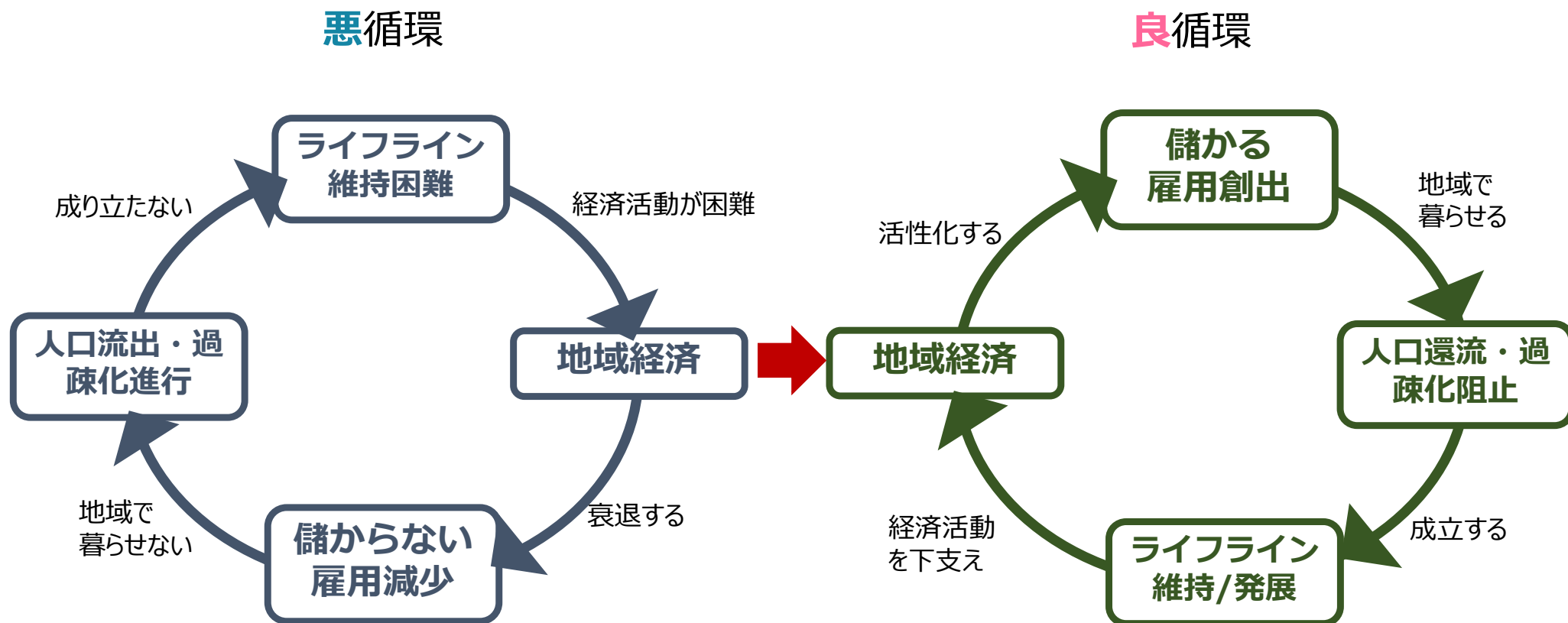
仕事はある。農林水産業が。



問題は魅力的な就業先ではないこと

問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

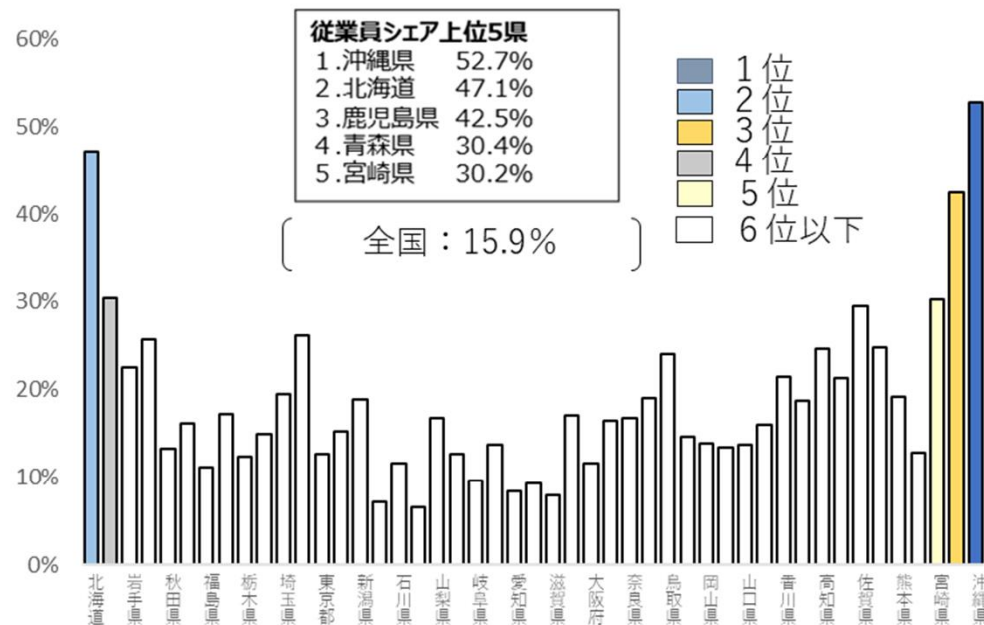
➡ 儲かっていない・十分な雇用を確保できない



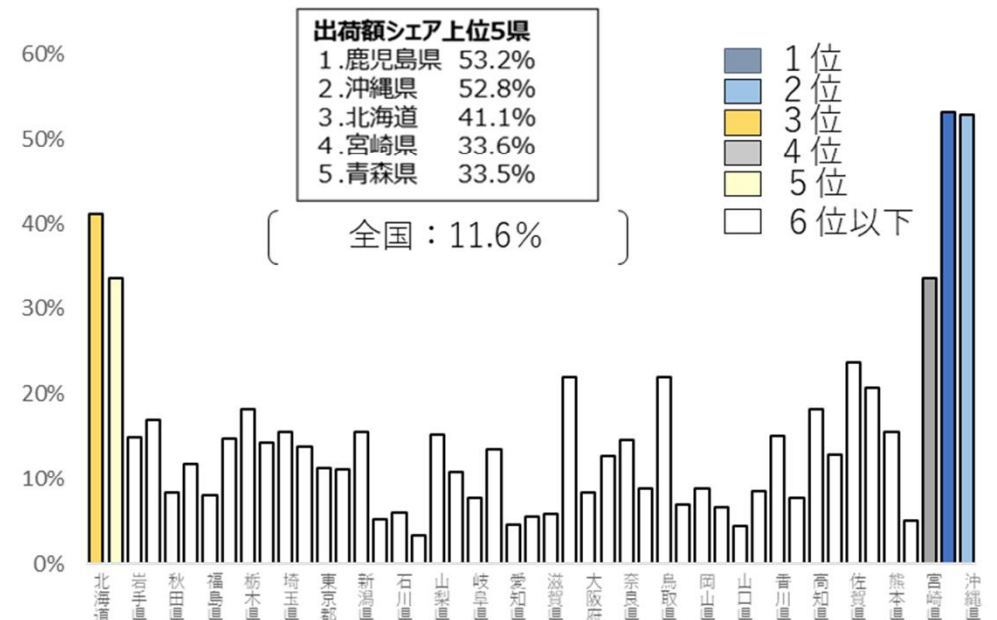
地方においては産業の中心が食品製造のところも。

農業が魅力的な仕事にならないと、**食品産業（食品製造、流通業、外食産業）**にも大きな影響がある。

○ 各都道府県の全製造業における食品製造業の従業員数のシェア



○ 各都道府県の全製造業における食品製造業の出荷額のシェア



資料：経済産業省「2023年経済構造実態調査製造業事業所調査」

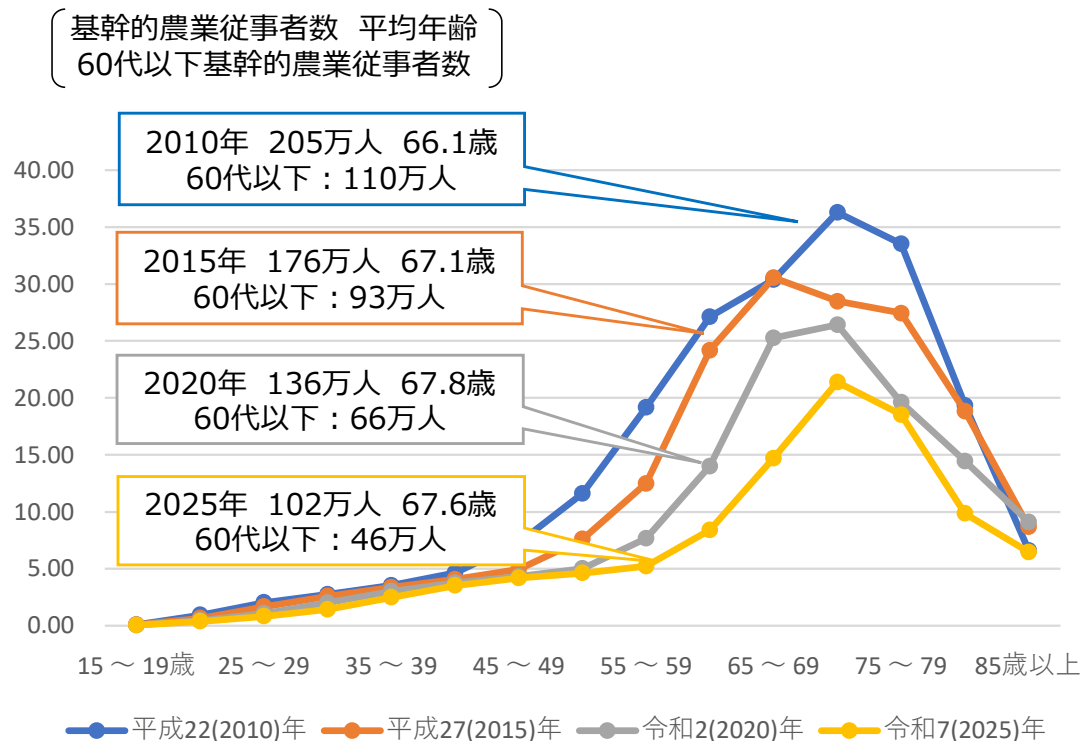
注1：食品製造業は、飲料・たばこ・飼料製造業を含む。

注2：出荷額は調査結果上、製造品出荷額等とされているもの。

農林水産業の課題：高齢化

平均年齢67.6歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

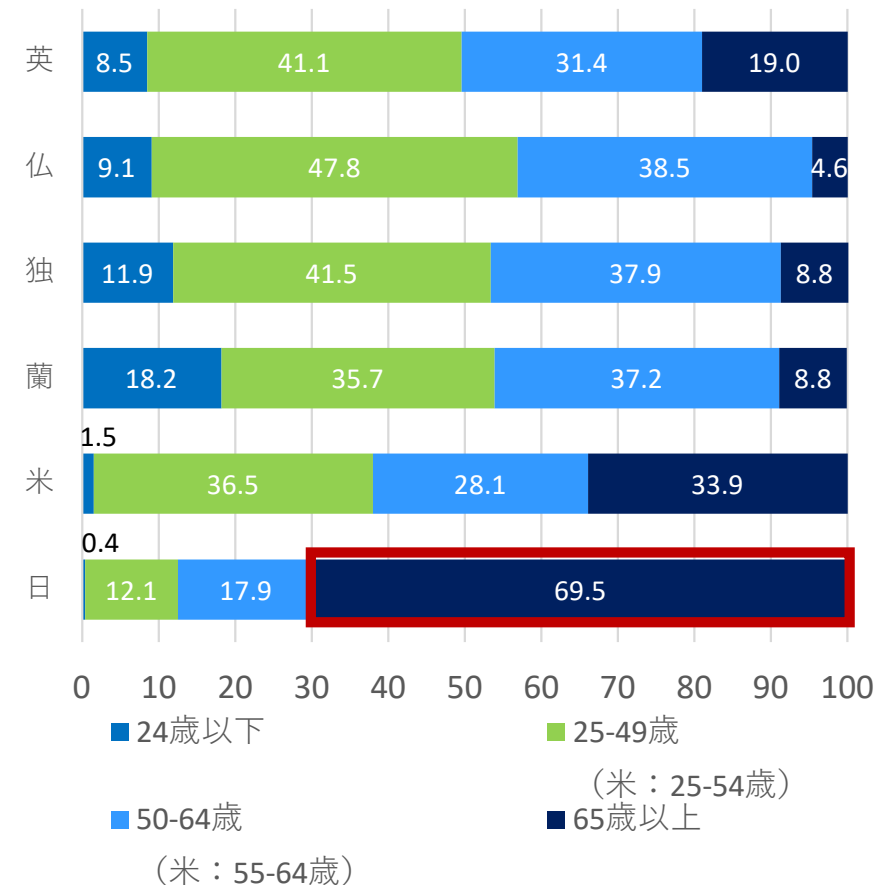
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、
 ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成

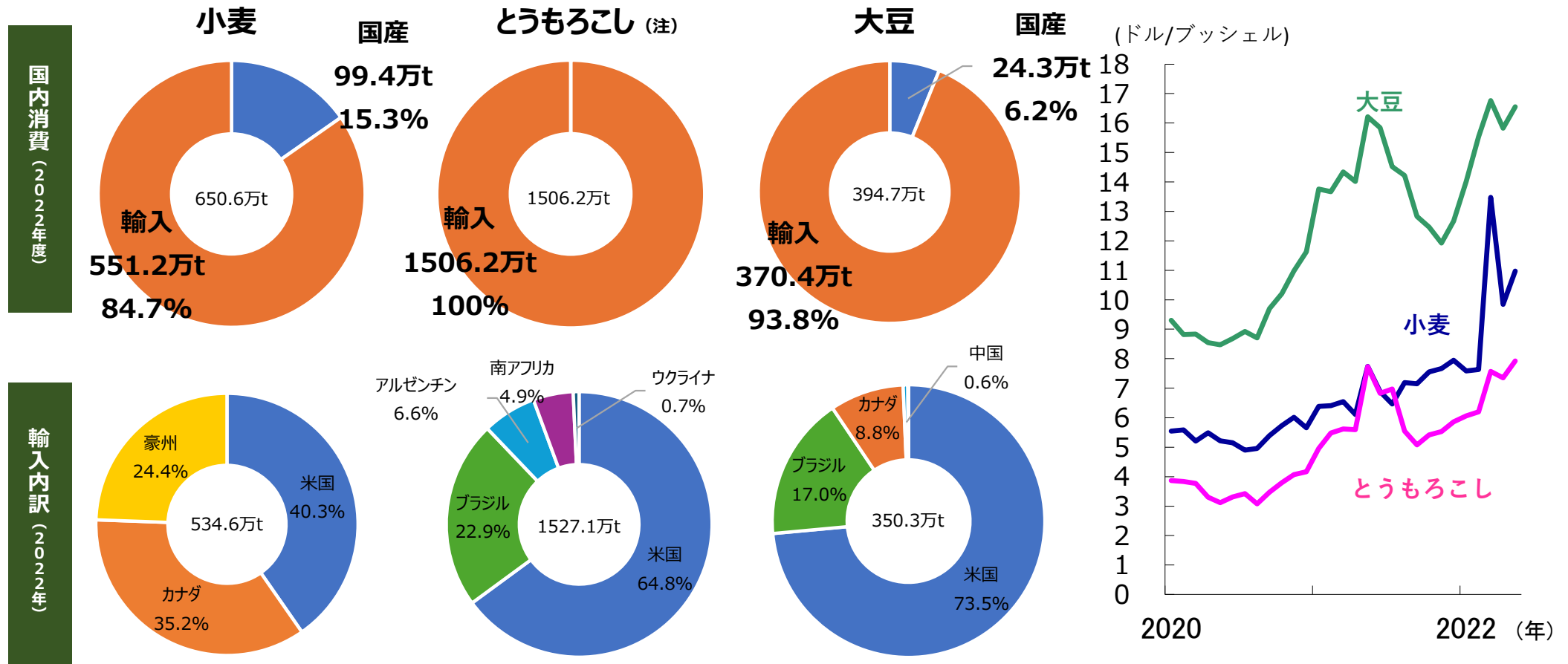


【資料】

英は、EUROSTAT (2019) : 農業に従事した世帯員
 仏独蘭は、EUROSTAT (2020) : 農業に従事した世帯員
 米は、米国農務省「2017年農業センサス」
 : 農業に従事した世帯員
 日は、農林水産省「農林業センサス」(令和7年)
 : 基幹的農業従事者

日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく輸入に頼っている。一方で、気候変動や新興国の輸入需要の増加、ウクライナ情勢により、相場は高騰



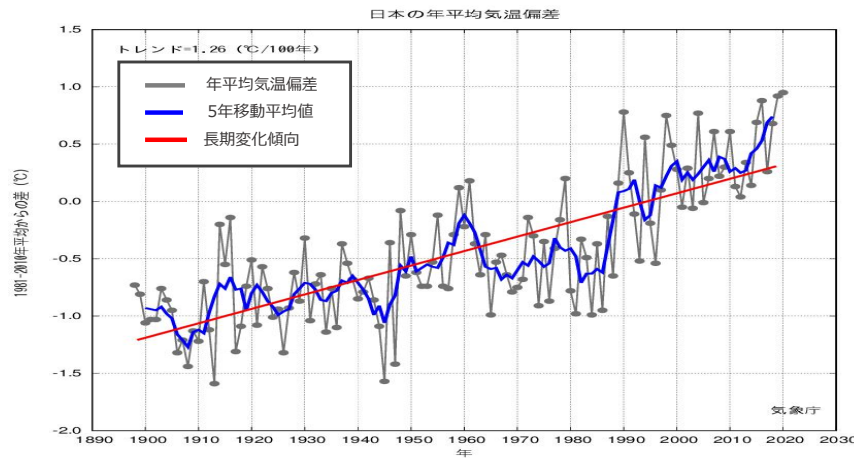
（注）穀物としてのとうもろこしを指し、野菜に分類されるスイートコーン（国内ではほぼ完全に自給）は含まない。

出典：農林水産省「食料需給表」、FAO「FAOSTAT」

日本の食の課題：地球環境の変化

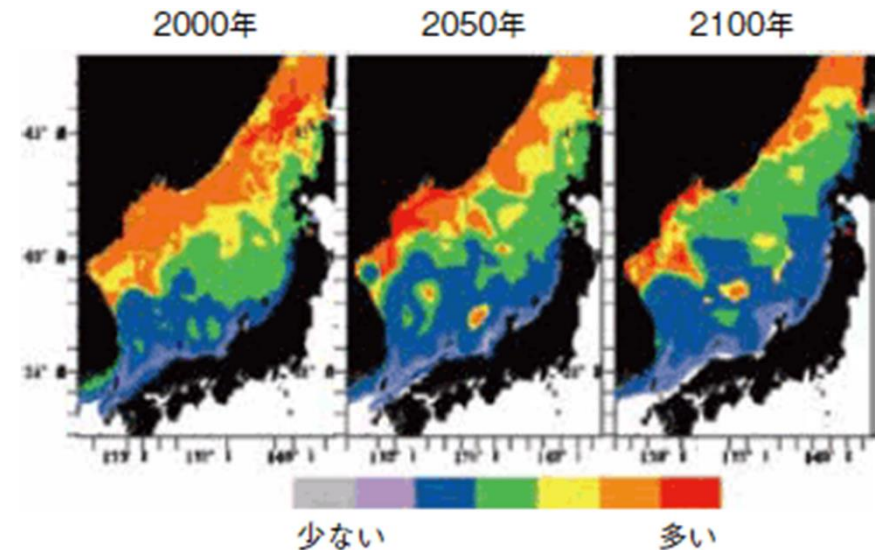
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.44℃**の割合で上昇。
2024年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



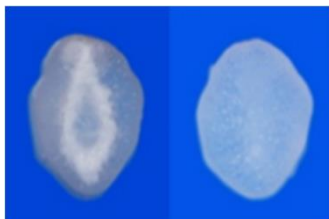
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



■ 農業分野への気候変動の影響

- ・ 水稲：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

「食」と「環境」を未来に継承するために

MISSION

「食」

- ・食料安全保障の確保

「環境」

- ・多面的機能の発揮
例) 自然環境、国土保全、
コミュニティ形成、文化等々

産業

農林水産業の持続的な発展

輸出

国際
交渉

金融

- ・農地・担い手の確保・農業構造の確立
- ・生産性・付加価値向上
- ・環境負荷低減

環境

技術
開発

安全
衛生

TOOLS

地域

農山漁村の振興

地方
創生

観光

- ・地域社会の維持
- ・生産条件及び生活環境の整備

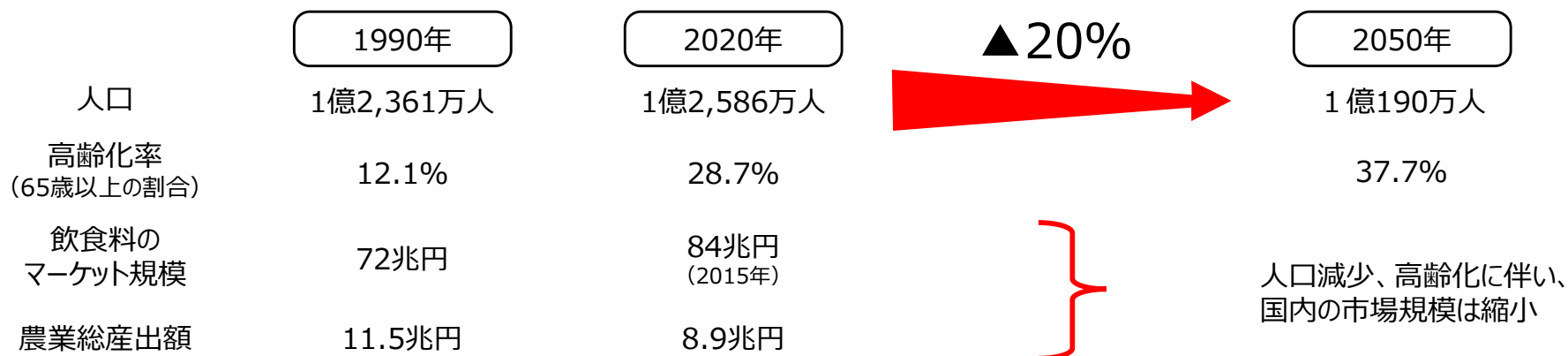
教育

文化

インフラ

(前提として) 国内市場の変化

- ・ 国内の市場規模は、人口減少や高齢化に伴い、縮小。
- ・ 急速な需要の減少が、日本の農林水産業に大きな影響を与えることは不可避。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」
農林水産省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表（飲食費のフローを含む。）」、「生産農業所得統計」

○一人当たり食料支出額（単位：％）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合 計	100	103	105	108	112	116
生鮮食品	100	99	95	93	91	89
加工食品	100	105	110	117	124	132
外 食	100	104	106	108	110	113

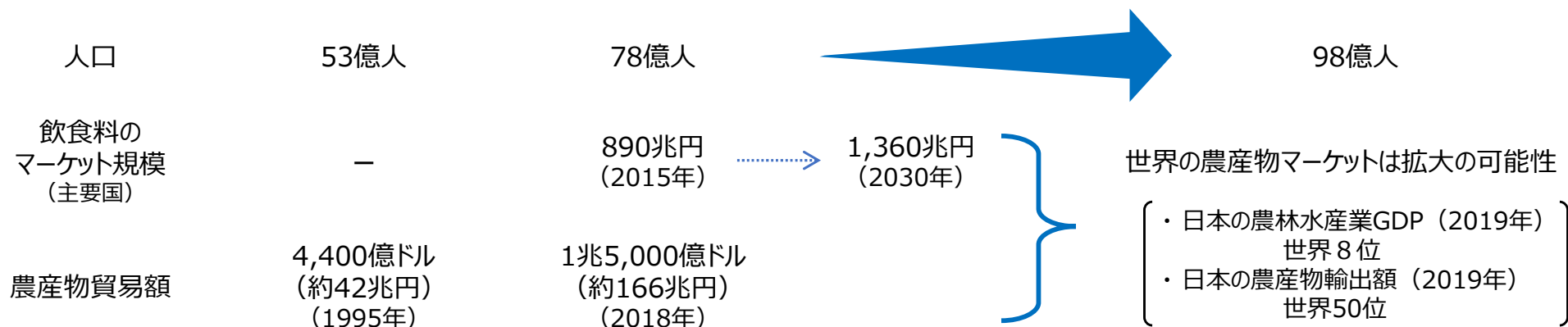
○食料支出総額（単位：％）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合 計	100	101	100	100	99	98
生鮮食品	100	97	91	85	80	75
加工食品	100	103	105	107	109	111
外 食	100	102	100	99	97	95

資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計」（2019年版）

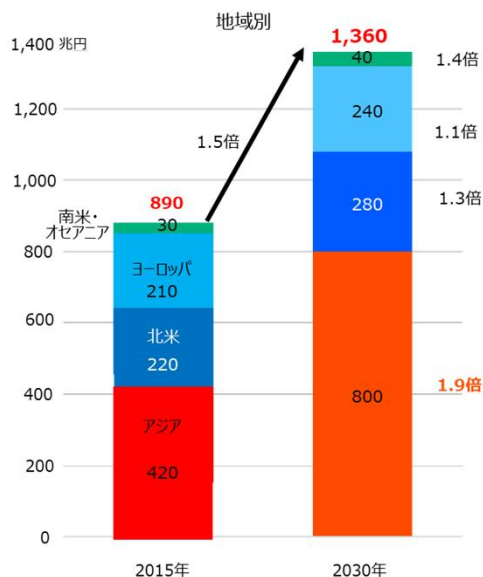
(前提として) 海外のマーケットを取り込んでいくことが重要。

- 世界の農産物マーケットは、人口の増加に伴い、拡大する可能性。
- 農林水産業の生産基盤を維持・強化し、農林水産物・食品の輸出促進により世界の食市場を獲得していくことが重要。



資料：国際連合「世界人口予測・2017年改訂版」、農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」、FAO「世界農産物市場白書（SOCO）：2020年報告」

○世界の飲食料市場規模



※グラフの数値は四捨五入して表示してある。

○国別・部門別の飲食料市場規模

単位：兆円

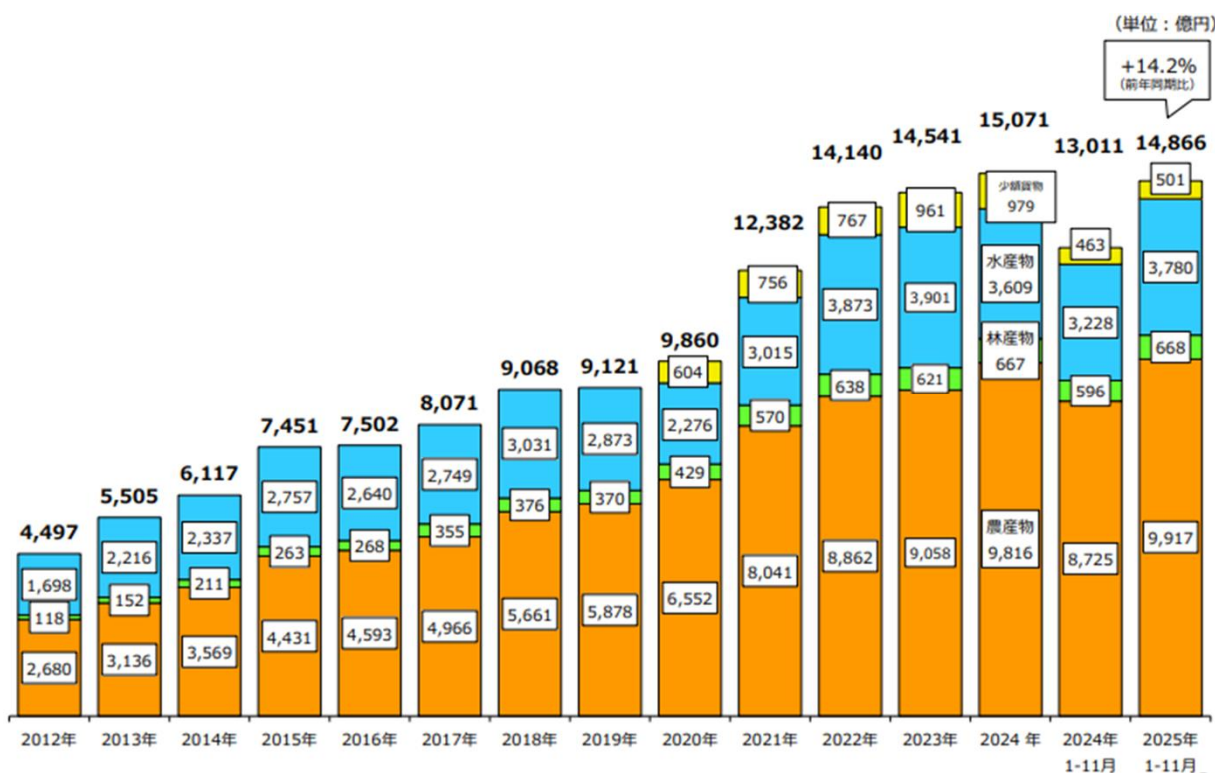
	2015年				2030年			
	生鮮品	加工品	外食	合計	生鮮品	加工品	外食	合計
アジア	221	146	57	424	409	292	93	794
北米	47	93	83	223	55	105	125	284
ヨーロッパ	53	97	60	211	62	105	75	242
南米・オセアニア	12	12	9	32	15	16	14	45
34か国・地域計	333	348	210	890	541	518	306	1,364

資料：農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」

農林水産業の持続的な発展：輸出促進

近年急速に増加。2021年には1兆円、2024年には1.5兆円を突破！
2030年輸出額 5兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額



○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

国名	生産額 (農産物・ 食品製造 業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

輸出のための取組

○ 我が国においても、品目団体の組織化や輸出先国における専門的・継続的な支援体制の強化に着手。

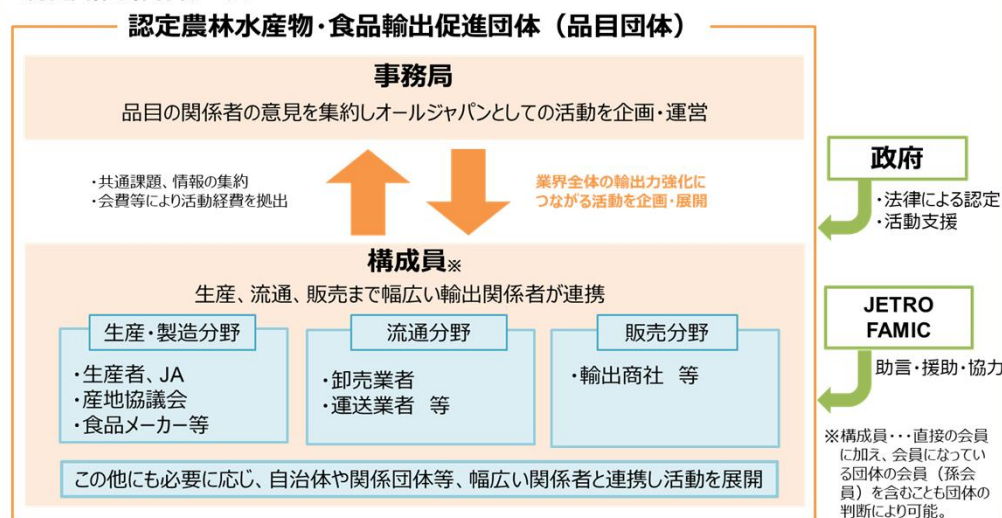
品目団体の組織化及びその取組の強化

輸出促進法による品目団体の認定制度を創設し、以下の取組を推進

- ① 輸出先国・地域の市場等の調査やジャパンブランドを活用した広報宣伝等の業界一体での需要開拓
- ② 輸出拡大に効果的な業界規格の策定
- ③ 会員等を対象とする任意のチェックオフなど自主財源の増加

- 他の先進国並の輸出促進の体制を構築
- 日本の強みがある品目をオールジャパンで販売する体制を整備

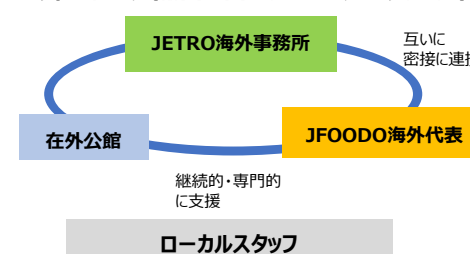
<認定団体の体制イメージ>



輸出先国・地域における専門的・継続的な支援体制の強化

- 主要な輸出先国・地域において、在外公館とJETRO海外事務所等を主な構成員とする輸出支援プラットフォームを設立
- 食品産業等に精通した人材をローカルスタッフとして速やかに雇用・確保し、輸出先国で輸出事業者を包括的・専門的・継続的に支援
- 輸出支援プラットフォーム設置都市
米国（ロサンゼルス、ニューヨーク）、
EU（パリ）、
ベトナム（ホーチミン）、シンガポール（シンガポール）、
タイ（バンコク）、中国（上海、北京、広州、成都）、
香港（香港）、台湾（台北）

プラットフォーム（輸出先国・地域における公的支援）



支援

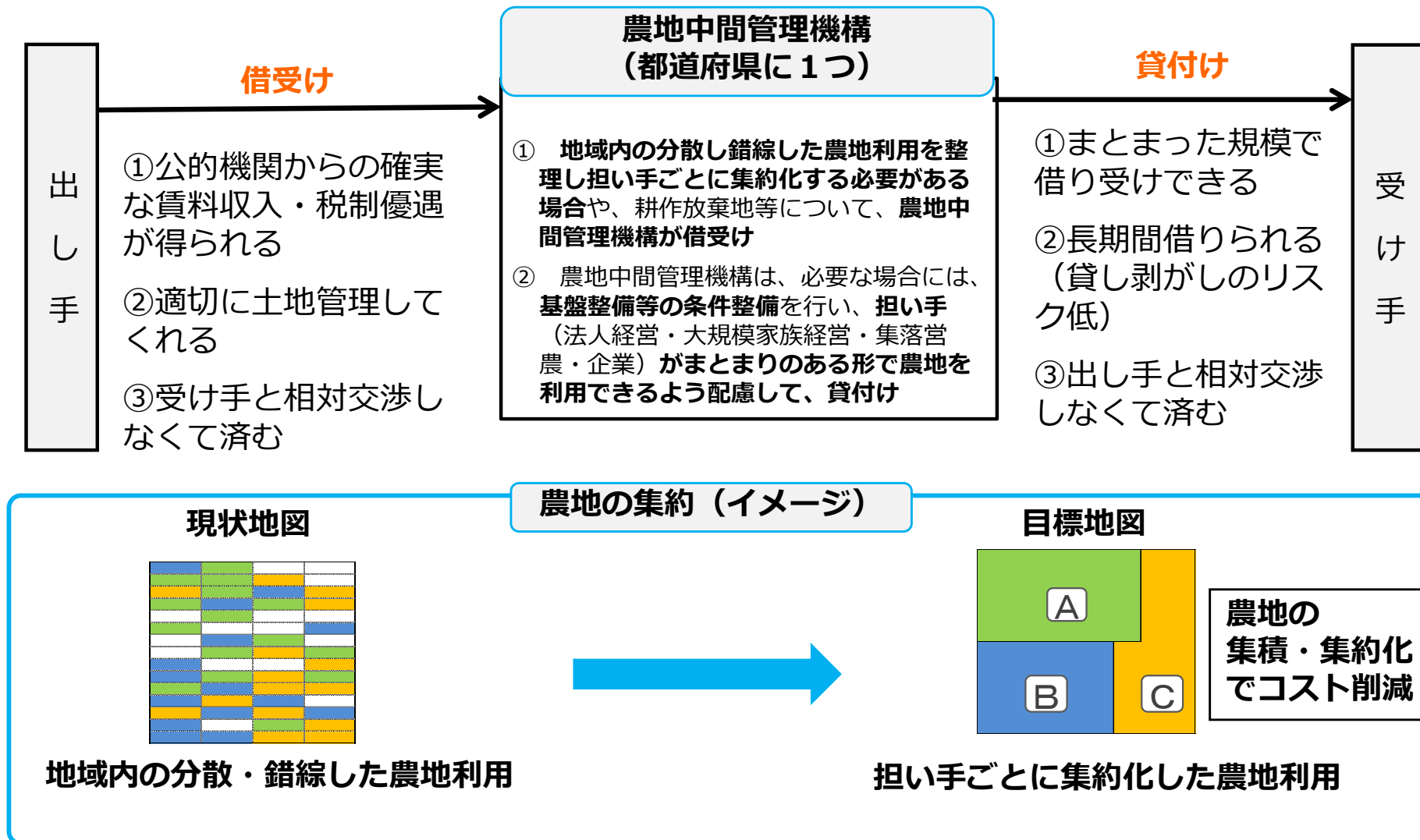
PF協議会

- ・現地法人
- ・現地食品事業者
- ・現地レストラン 等

- 我が国への還元
- ・国内品目団体へのトレンド情報提供
 - ・新規規制情報を政府間協議に反映
 - ・GFPと連携したPRイベントの開催

農林水産業の持続的な発展：農地集積による大規模化・コストダウン

- 離農者などは「**農地中間管理機構**」（**農地バンク**）に農地を預け、地域の話合いに基づき市町村が作成する「**目標地図**」に沿って、農地バンクが企業を含む「**担い手**」に一括で貸出し。



農林水産業の持続的な発展：テクノロジー活用

「農業」 × 「先端技術」 = 「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと

スマート農業の効果

① 作業の自動化

ロボットトラクター、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手不足の解消が可能に

② 情報共有の簡易化

位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に

③ データの活用

ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に



データ連携基盤

農業データ連携基盤

スマート農業に必要なデータを連携・共有・提供。



連携



スマートフードチェーンプラットフォーム

生産から加工・流通・販売・消費に至るデータを連携。



農林水産業の持続的な発展：みどりの食料システム戦略

①食料システムの関係者の理解の増進



食から日本を考える。
NIPPON FOOD SHIFT

➢ 広報活動の充実

②技術の研究開発の促進



➢ 産学官連携の強化、研究者の養成等

③技術の普及の促進



➢ 栽培マニュアル等の情報提供や普及事業の展開

⑦環境負荷の低減に資する農林水産物等の消費の促進



➢ 消費者への適切な情報提供、食育の推進

⑧評価手法等の開発



➢ 脱炭素化等の定量化・評価手法（見える化）の検討

④環境負荷の低減に資する生産活動の促進



➢ 地力増進、化学肥料・化学農薬の使用低減、温室効果ガスの削減・吸収 など

⑥環境負荷の低減に資する農林水産物等の流通の合理化の促進



➢ ICT化、モーダルシフト、集出荷拠点の集約化等

⑤環境負荷の低減に資する原材料の利用の促進



➢ 原材料の生産等の状況に関する情報収集・提供

みどりの食料システム戦略（具体的な取組）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

調達

1. 資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進

- (1) 持続可能な資材やエネルギーの調達
- (2) 地域・未利用資源の一層の活用に向けた取組
- (3) 資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築・技術開発

～期待される取組・技術～

- 地産地消型エネルギーシステムの構築
- 改質リグニン等を活用した高機能材料の開発
- 食品残渣・汚泥等からの肥料成分の回収・活用
- 新たなタンパク資源（昆虫等）の利活用拡大等

2. イノベーション等による持続的生産体制の構築

- (1) 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換
- (2) 機械の電化・水素化等、資材のグリーン化
- (3) 地球にやさしいスーパー品種等の開発・普及
- (4) 農地・森林・海洋への炭素の長期・大量貯蔵
- (5) 労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大
- (6) 水産資源の適切な管理

～期待される取組・技術～

- スマート技術によるピンポイント農薬散布、病害虫の総合防除の推進、土壌・生育データに基づく施肥管理
- 農林業機械・漁船の電化等、脱プラ生産資材の開発
- バイオ炭の農地投入技術
- エリートツリー等の開発・普及、人工林資源の循環利用の確立
- 海藻類によるCO₂固定化（ブルーカーボン）の推進等

生産

・持続可能な農山漁村の創造
・サプライチェーン全体を貫く基盤技術の確立と連携（人材育成、未来技術投資）
・森林・木材のフル活用によるCO₂吸収と固定の最大化

- ✓ 雇用の増大
- ✓ 地域所得の向上
- ✓ 豊かな食生活の実現

消費

4. 環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

- (1) 食品ロスの削減など持続可能な消費の拡大
- (2) 消費者と生産者の交流を通じた相互理解の促進
- (3) 栄養バランスに優れた日本型食生活の総合的推進
- (4) 建築の木造化、暮らしの木質化の推進
- (5) 持続可能な水産物の消費拡大

～期待される取組・技術～

- 外見重視の見直し等、持続性を重視した消費の拡大
- 国産品に対する評価向上を通じた輸出拡大
- 健康寿命の延伸に向けた食品開発・食生活の推進等

3. ムリ・ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立

加工・流通

- (1) 持続可能な輸入食料・輸入原材料への切替えや環境活動の促進
- (2) データ・AIの活用等による加工・流通の合理化・適正化
- (3) 長期保存、長期輸送に対応した包装資材の開発
- (4) 脱炭素化、健康・環境に配慮した食品産業の競争力強化

～期待される取組・技術～

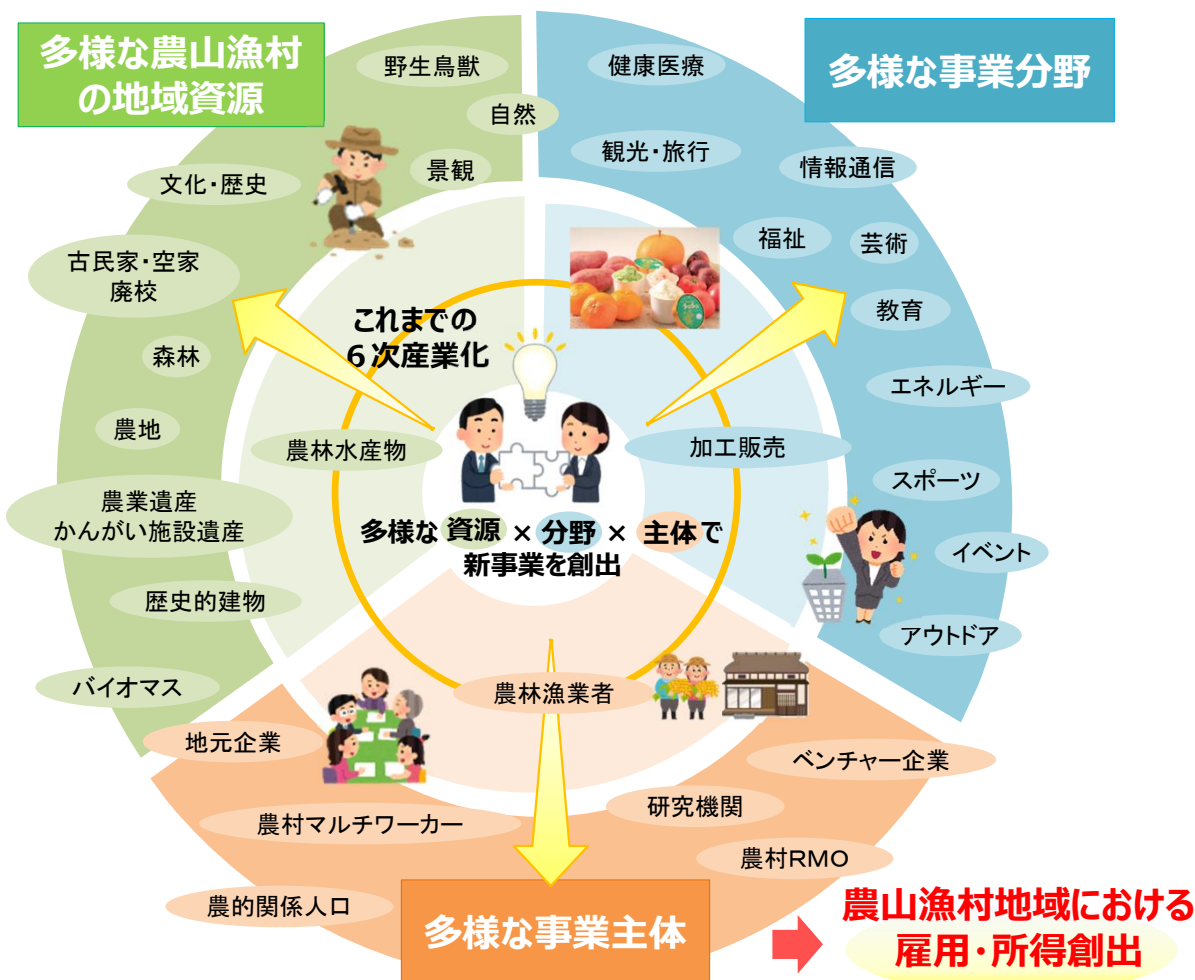
- 電子タグ（RFID）等の技術を活用した商品・物流情報のデータ連携
- 需給予測システム、マッチングによる食品ロス削減
- 非接触で人手不足にも対応した自動配送陳列等

農山漁村の振興：地域資源活用価値創出

- 「地域資源活用価値創出」（旧農山漁村発イノベーション）とは、従来の6次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた多様な主体の参画によって新事業や付加価値の創出を図る取組。

地域資源活用 価値創出

- 農山漁村のあらゆる地域資源をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など他分野との連携を一層促進



地域資源活用価値創出の事例

<例1>

「農産物、景観」 × 「加工販売、観光・旅行」
× 「農林漁業者、地元企業」

株式会社ワカヤマファーム
(栃木県宇都宮市)

タケノコや栗の加工販売に加え、美しい竹林景観を活かして、映画のロケ地や観光商品として活用。



<例2>

「森林」 × 「スポーツ」 × 「ベンチャー企業」

株式会社フォレストリー
(栃木県壬生町)

森林をフィールドとしたサバイバルゲーム事業を行うとともに、参加料の一部を森林所有者にも還元。



<例3>

「農産物」 × 「加工販売、観光旅行、教育」
× 「農林漁業者、地元企業」

有限会社 シュシュ
(長崎県大村市)

6次産業化による農産加工品の製造・販売のほか、食育体験や収穫体験など豊富なメニューの取組を展開。



農山漁村に関わりの少なかった企業の農林水産業・食品産業への参入促進について

人口減少下において、企業の活力を農山漁村に取り込むため、①官民共創の関係者が集まる場の創設、情報発信を行うとともに、②拠点の創設、課題解決モデルの選定により、具体的な案件形成を進める。また、③農山漁村のインパクトの可視化を通じて企業インセンティブを向上させ、④大企業による課題解決の取組を促進するとともに、これらの取組を行う企業を認定する⑤インパクト証明制度を創設し、農山漁村への企業参入を促進する。

① 官民共創の関係者が集まる場の創設、情報発信

- 「農山漁村」経済・生活環境創生プラットフォーム：
〔NTT東西、JR東、近鉄、日本郵便、ヤマト運輸、TOPPAN、ゼンリン、テレ東、ロート製薬、アサヒビール、ヤンマー、クボタ、丸紅、H2O、しずおかFG、みずほ証券、東京海上日動、中央日土地、JTB、楽天 等（令和7年8月時点：約480企業、自治体含め約550団体）〕
- シンポジウムの開催：
第1回（令和7年2月4日）会場参加300名超、オンライン参加900名超
第2回（令和7年7月16日）会場参加250名超、オンライン参加800名超
- 個別の取組：
〔主要テーマ〕〔中山間地域対策〕
・域外や他業種企業との新結合 ・「デンジ活」中山間地域
・副業の促進 ・中山間地域の物流、農村RMO（郵便局等と連携）

② 案件形成拠点の創設、課題解決モデルの選定

- 市町村

課題の開示

中間支援組織

課題の共有

民間企業等

課題の整理

解決策提案
- 地方銀行による中間支援：
〔静岡銀行、福井銀行、あいち銀行、山口銀行(YMFG)、高知銀行、肥後銀行 等〕
 - 都道府県の関与：
農林水産 地方創生センター（福井県）
 - モデル企業を国が選定（インパクト創出ソリューション実装プログラム）：
農業における人口減の対応と生産性向上 地域コミュニティ
〔タイミー、三祐コガタツ、サグリ、EF Polymer、アクセリア〕 〔楽天グループ、バカン〕
販路開拓等による付加価値向上 関係人口創出
〔ボードレス・ジャパン、NTTスマートコネクト〕 〔パナ農援隊、雨風太陽〕

③ 企業インセンティブの向上「農山漁村」インパクト可視化ガイダンス

- 農山漁村のインパクト
地域経済の活性化 農山漁村の持続可能な生活環境の維持 ネイチャーポジティブ
気候変動の抑制 気候変動への適応 ウェルビーイング向上 農山漁村における災害レジリエンスの向上
- 企業のメリット
事業リターン 人的リターン（対従業員） ブランドリターン（対顧客） 資本市場リターン（対投資家）

④ 大企業による課題解決の取組促進、⑤ インパクト証明書

- 検討会参加企業（農山漁村の課題解決に積極的に関与）
〔JR東、NTT東、JAL、JTB、アサヒビール、H2O（阪急阪神百貨店等）〕
- 参加企業による取組事例
企業版ふるさと納税を活用した社員副業による農業参入（JR東日本）
援農ボランティアツアー（アサヒビール、ニッカウモスキー、JTB）



国が発行

農山漁村社会・環境
インパクト創出証明書

農林水産関連の主な地域資源

<和食>



<SAVOR JAPAN>



神楽料理/宮崎県



もち料理/岩手県

<漁家民宿>



京都府与謝郡伊根町

<農家民宿>



福井県鯖江市

<ジビエ>



<漁港めし>



都屋の海人丼/沖縄県

食

宿泊

<古民家>



京都府南丹市美山町

体験

景観+α

<農作業体験>



ミカン狩り

ミカン狩り/鹿児島県出水市



野菜収穫体験
/熊本県菊池市

<日本農業遺産>



複合的果樹システム
/山梨県

<かんがい施設遺産>



通潤橋
/熊本県山都町

<自然体験>



フットパス
/北海道鶴居村



カヌー体験
/宮崎県延岡市

<文化体験>



茶道体験
/鹿児島県出水市



紙漉き
/福井県越前市

<棚田>



白米千枚田
/石川県輪島市

<世界農業遺産>



長良川上中流域
/岐阜県

<美しい森>



紬の森
/京都府京都市

国民理解の醸成・国民的運動の展開

ニッポンフードシフト

消費者、生産者、食品関連事業者、日本の「食」を支えるあらゆる人々と行政が一体となって、考え、議論し、行動する国民的運動。



「ノウフクの日」

農福連携（農業×福祉の取組）関係団体や企業等が協働して、ノウフク商品の販売等、農福連携等の更なる展開や普及に取り組むための国民的運動。

（→「ノウフクの日」制定記念交流会の様子）
積極的に農福連携に取り組む実践者との意見交換などを行いました。写真は官房長官が支援学校の学生さんが育てた大根を持っている場面です。



↑令和6年、官邸で行った会議で「ノウフクの日」を制定しました。



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

近畿農政局の職場環境

04

近畿農政局経験者職員紹介

農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万4千人）で構成され、総定員数は約1.9万人です。

（主な機関）

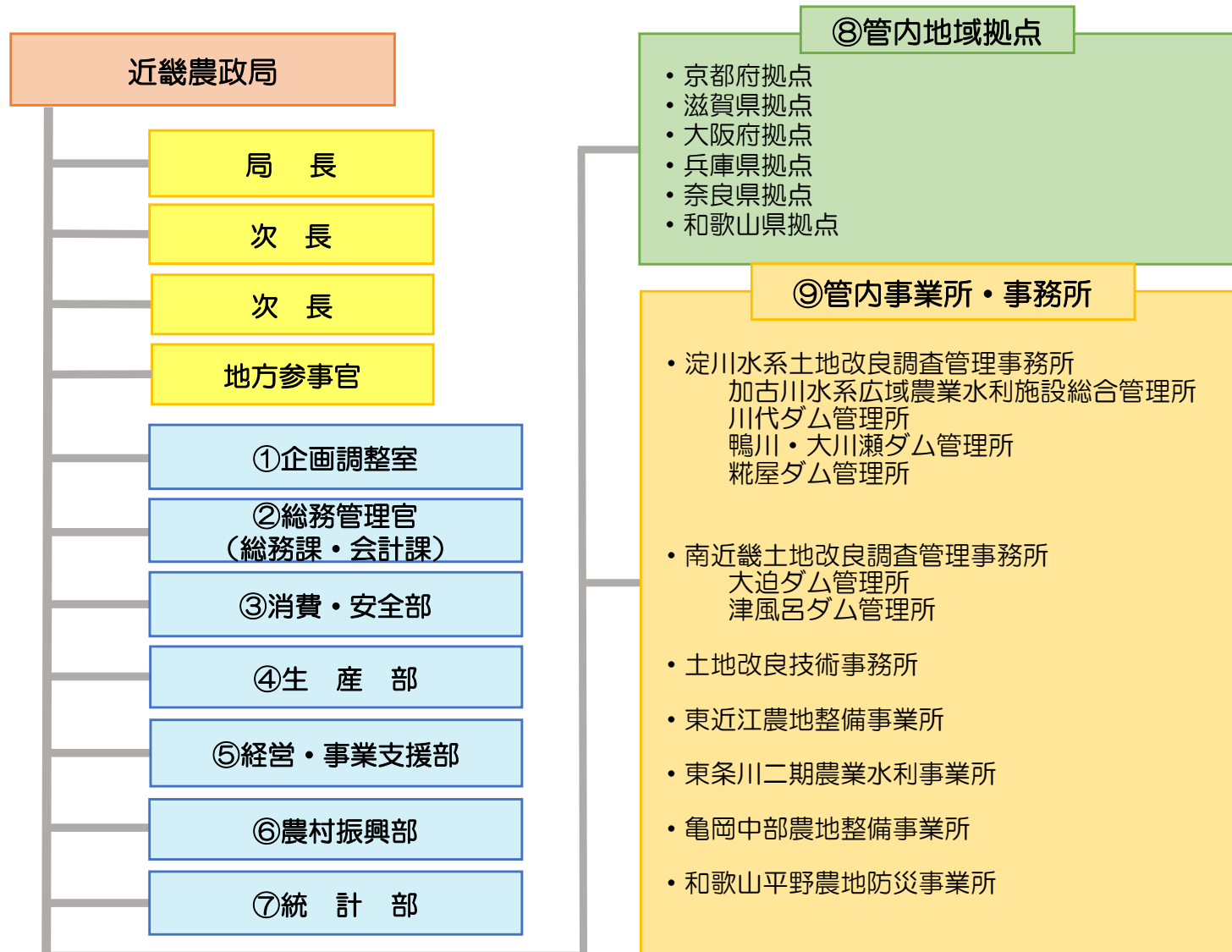
- ・ **本省**…農林水産政策の企画立案
- ・ **地方農政局**…農業政策の実施・周知・把握

※その他（植物防疫所、動物検疫所、森林管理局、漁業調整事務所）



近畿農政局の組織

組 織 図



近畿農政局の配属例①

①企画調整室

(企画調整室防災・危機管理係長)

- ・災害時の連絡業務、防災関連業務の事務及び研修業務

(企画調整室食料安全保障係長)

- ・食品価格動向調査に伴う事務、食料安全保障業務及び食品製造事業者等のヒアリング調査

②総務課

(情報セキュリティ係長)

- ・業務用PCに関する問い合わせ対応及び情報セキュリティインシデント発生時の対応業務

(服務・管理係長)

- ・勤務・勤怠管理、服務規律の保持（職員の倫理、兼業の申請・承認事務等）研修業務

(支給係長)

- ・職員給与の算定・支給及び税務・行政手続き業務

②会計課

(歳出・決算係長)

- ・予算の執行に伴う支出事務、年間の支出取りまとめ及び決算書類作成業務

③消費・安全部

(消費・安全部消費生活課食品アクセス推進係長)

- ・食育推進に関する事務（学生料理コンテスト等に関する企画・運営等）

(消費・安全部消費生活課消費経済係長)

- ・国民の理解醸成（消費者への情報提供、消費者相談）

(米穀流通・食品表示監視課 食品表示監視官)

- ・監視7法に基づく食品表示・情報の伝達に関する監視業務

(畜水産安全管理課生産資材監視係長)

- ・「愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律」に基づくペットフードの製造・輸入に関する届出受付

④生産部

(生産振興課総務係長)

- ・所属職員に関する庶務関係事務及び予算管理事務

(生産振興課流通改善係長)

- ・米穀・米粉に関する行政事務及び企画運営業務

(園芸特産課果樹係長)

- ・果樹の生産振興（生産・流通・消費の増進、改善及び調整等）に係る業務

(環境・技術課プラスチック削減係長)

- ・環境保全型農業、みどりの食料システム戦略に係る業務

(経営政策調整官畑作物直接支払第2係長)

- ・経営所得安定対策等の推進及び交付金の交付に係る業務

⑤経営・事業支援部

(担い手育成課経営調整係長)

- ・農業経営・就農支援、担い手確保、参入促進に係る事業の推進

(輸出促進課業務推進専門職)

- ・農林水産物・食品の輸出拡大に向けた事業者支援

(食品企業課食品リサイクル係長)

- ・中小企業の支援措置に係る経営力向上計画の認定業務

(食品企業課連携係長)

- ・「食料システム法」に基づく食品等取引実態調査業務に伴う生産・製造・卸売・市場関係・小売事業者を対象とした個別ヒアリングの実施

近畿農政局の配属例②

⑤経営・事業支援部

(農地政策推進課国有財産係長)

- ・ 国有農地等の管理・処分に関する事務等

(経営支援課計画推進係長・経営支援課事業指導係長)

- ・ 担い手の経営改善を図るための農業用機械・施設等の導入支援

(経営支援課農業協同組合指導係長)

- ・ 農業協同組合の法令遵守、経営管理の適切性を確保するための指導・監督業務

⑥農村振興部

(農地整備課 係長)

- ・ 補助事業に係る会計処理及び経費精算に関連する報告業務

⑦統計部

(調整課統計調整係長)

- ・ 統計調査に従事した調査員への手当及び調査協力者（農家等）への謝金の支払事務

(経営・構造統計課構造統計係長)

- ・ 農業・漁業経営体の経営実態を把握する統計調査の実施及び調査員指導

(経営・構造統計課経営統計第2係長)

- ・ 農産物・畜産物の生産費（肥料費、飼料費、労働費など）統計調査の取りまとめ業務

⑧管内 地域拠点



- ・ 府県・市町村・農業団体等への政策の説明、意見聴取、課題への対応
- ・ 6次産業化の推進、経営所得安定対策の実施、コメ政策や水田フル活用の推進 等

⑨管内国営事業（務）所 庶務課



- ・ 国営事業に関する入札関係事務
- ・ 物品・役務等の調達
- ・ 所属職員に関する庶務関係事務



⑨管内国営事業（務）所 用地課

※主に農村振興行政系



- ・ 国営事業に関する地元説明会の開催
- ・ 地権者の方への補償内容の説明
- ・ 土地評価・補償額の算定
- ・ 境界立会、補償物件の調査 等

採用区分の違い（事務系、技術系）

- ▼ 各種施策に関する**行政の実施業務・運営管理業務**を行う「**事務系**」と各種施策に関する事務に、**主として技術的な知識を活用して従事**する「**技術系**」のいずれかの区分での採用となります。
- ▼ 「**事務系**」と「**技術系**」の**重複応募はできません**。
応募していただく際に、どちらかを希望していただきます。
- ▼ 「**事務系**」は、**近畿農政局本局**又は**管内の地域拠点や国営事業（務）所**が主な配属先となりますが、「**技術系**」は、近畿農政局の他に、**農林水産本省や他の地方農政局**で勤務いただくことがあります。

採用区分の違い

採用区分	事務系	技術系
採用予定数	1 2 名	3 名
業務内容	各種施策に関する 行政の実施業務・運営管理業務	各種施策に関する事務に、 主として技術的な知識を活用して従事
主な配属先	原則、近畿農政局管内（2府4県）	原則、近畿農政局管内（2府4県）の他に、 農林水産本省、他の地方農政局への異動を予定
最初の配属先	本局	本局

採用系統の違い（①行政系、②農村振興行政系）

※事務系には2つの採用系統があります

- ▼ 行政の実施業務・運営管理業務を担当する**行政系**と
土地改良事業における用地・管理業務を担当する**農村振興行政系**の
いずれかの区分での採用となります。
- ▼ どちらの区分を受験するかは、第2次選考の面接試験の際お尋ねします。
（両方の受験も可）
- ▼ いずれのキャリアパスであっても、必ず本局以外の官署への異動があります。
**（ただし、近畿管内は一部の官署を除き官署間の交通の便が比較的良好いため、
官署をまたいだ異動となっても、転居されずに通勤で対応されている方も
多くいらっしゃいます。）**

採用系統の違い

採用系統	行政系	農村振興行政系
業務内容	行政の実施業務・運営管理業務	土地改良事業における 用地・管理業務中心
主な配属先	原則、近畿農政局管内（2府4県） ・近畿農政局本局 ・管内の地域拠点 ・管内の国営事業（務）所（庶務・経理等）	原則、近畿農政局管内（2府4県） ・近畿農政局本局 （主に 農村振興部の用地課、水利整備課等 ） ・管内の国営事業（務）所（ 用地等 ）中心
最初の配属先	本局	国営事業（務）所

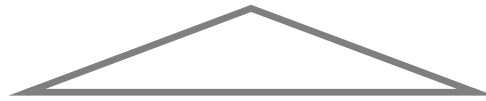
キャリアパス【一般職係長級（事務系）】

- ▼ 国家公務員採用一般職試験合格者（係長級）相当での採用となります。
- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。
本局のほか、府県拠点や事業所での勤務があります。
- ▼ 本人希望を踏まえつつ、おおむね2年程度での異動となります。
様々なポストを経験し、自分にあった分野のスペシャリストを目指していただきます。
- ▼ 定年年齢は現在62歳ですが、段階的に引き上げられ令和13年度に65歳となります。

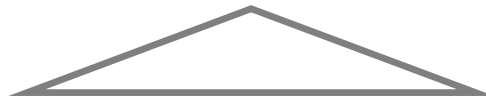
地方農政局の管理職



課長補佐



係長（今回の試験の募集対象）



係員

若手がどんどん行動しています

・ BUZZ MAFF

霞ヶ関 初！ 官僚系 YouTuber 誕生

【設立】 2020年1月7日（5年）

【チャンネル登録者】 18万人以上

農林水産省職員**自ら**がYouTuberとなり担当業務にとらわれず、**スキルや個性**を活かして、農林水産省や日本の農林水産業の魅力を発信するプロジェクト。



近畿農政局では、局内の**若手職員**を中心としたチーム「**となりの近畿**」を結成し、**近畿農業の魅力を発信**しています。



現場を知る

○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて
農業・農村の現場を肌で感じることを目的
とします。

入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地
の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に
密着し、**農作業体験の充実**を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場
の声を踏まえた施策を企画・推進する
ため、**管内各部の幹部による講演**や、
外部講師を招いた講演などを行って
います。

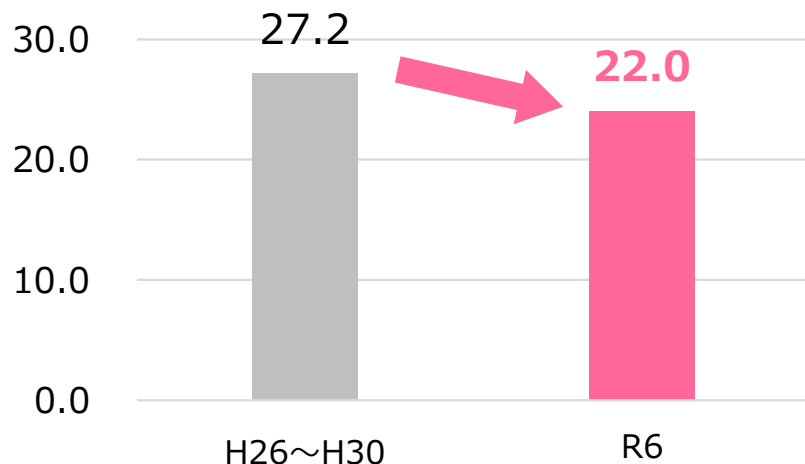
また、現場においてふさわしい礼儀
作法を身につけることを目的に、**ビジ
ネスマナー研修**も実施しています。



職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向

（時間/月）



○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

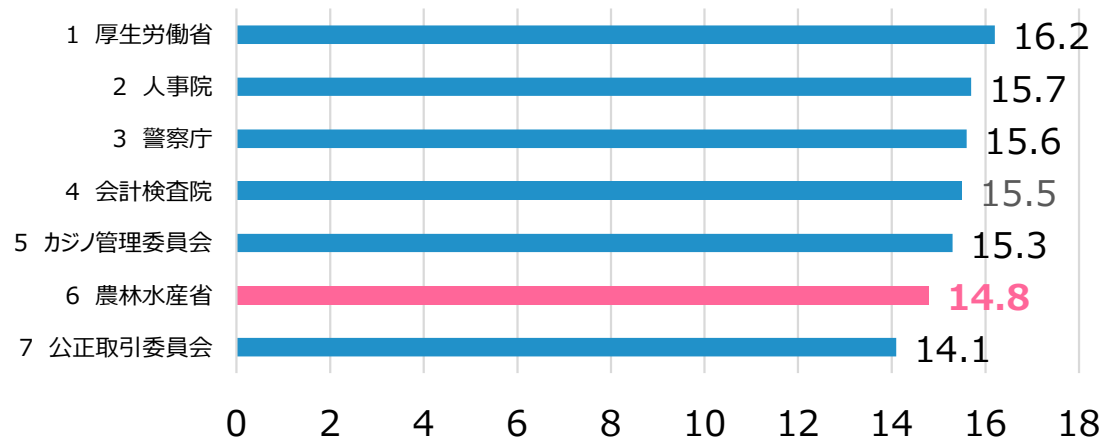
本省 （常勤職員）	22.0時間
地方機関 （常勤職員）	6.7時間
合 計	10.7時間

※令和5年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。

○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で6番目**

年次休暇取得日数（国家公務員（行政））



○ メンター制の実施

○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

働き方改革
キャラクター



採用スケジュール（令和8年度選考採用）

7/31（金）
～
10/13（火）

受付期間

（書類選考・論文試験）

第一次選考

10/28（水）

※合格者にのみメールで通知

第一次選考合格発表

11/24（火）
～
12/6（日）

（性格検査及び面接試験）

第二次選考

※日程調整はメールで行います

12/14（月）
予定

最終合格発表

※合格者にのみメールで通知

令和9年
4/1（木）

採用

※採用予定日については、必要に応じて
担当者にご相談ください。

近畿農政局採用実績（一般職係長級（事務系））

近年は、採用時の配属先として、総務課や会計課での内部管理業務のほか、生産部や経営・事業支援部などの政策を実施するための業務でも活躍していただいています。

選考採用試験（一般職係長級（事務系））

採用年度	採用人数 (うち女性職員)	主な配属部署
令和3年度	10 (1)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、経営・事業支援部、農村振興部、統計部
令和4年度	12 (6)	総務課、会計課、消費・安全部、経営・事業支援部、農村振興部、統計部
令和5年度	11 (3)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、経営・事業支援部、農村振興部、京都府拠点、南近畿土地改良調査管理事務所、和歌山平野農地防災事業所
令和6年度	6 (3)	生産部、経営・事業支援部、農村振興部
令和7年度	9 (3)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、経営・事業支援部、農村振興部、和歌山平野農地防災事業所
令和8年度	3 (1)	経営・事業支援部、東条川二期農業水利事業所

大きな転換期にある**社会課題**（**食・農林水産業**）に
幅広いフィールドで確かな**貢献**ができる。

転換期にある 農林水産業

- ・ 今、農林水産業は課題が山積している
- ・ ここから10年、20年で農林水産業は大きく変わる
- ・ いつの時代になっても、**食と環境を守る仕事は決してなくなる**ない

幅広いフィールド

- ・ 1次産業を中心とした多様なフィールド
- ・ 実際に世の中を動かせる豊富なツール
- ・ **ローカルからグローバルまで幅広い活躍の場がある**

確かな貢献

- ・ 産業（農林水産業、食品産業）を所管するからこそ、具体的な貢献ができる
- ・ 食という身近なものに関われる
- ・ ピンチの今だからこそ、**若手がチャレンジして変革を起こせる**



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局経験者職員紹介

東条川二期農業水利事業所用地課用地係長（令和8年度農村振興行政系採用）



皆さんへのメッセージ

私は、新卒で不動産業界に入り、その後、法律事務所に転職し事務員として働いてきました。異業種であり、ブランクもあるため、公務員として業務についていけるだろうかという不安もありましたが、OJTや様々な研修を受ける中で、少しずつ業務への理解が進んでいます。

農村振興行政系の業務は、現場が好きで新しい環境を楽しめる方には向いていると感じます。皆さんのこれまでの経験は、必ず生きる場面があると思います。近畿の農業に何らかの形で貢献したいという方、ぜひ私たちと一緒に働きましょう。

～用地業務を通じて、農業用水の安定供給と安全な施設整備を支える～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、東条川二期農業水利事業所の用地課に在籍し、主に幹線水路等の改修・耐震化対策工事等のための用地業務（買収・借地等）を行っています。

用地を取得するにあたっては、土地や権利者の調査、境界の確認、補償額算定や地権者への説明、契約等、様々な業務を行います。税務署や法務局、市役所等との協議が必要となる場面もあり、手続きも多岐にわたるため、間違いのないよう日々勉強を重ねつつ業務に当たっています。

また、課内での情報共有も大切にしています。農業用水・上水の安定供給や、施設の安全性の確保といった重要な意義を持つ事業の一端を担えることに、大きなやりがいを感じています。

～地域農業の未来を見据え、豊かな財産を次世代へ繋ぎたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

数年前に、近畿地方の農業が盛んな地域に移り住み、生活する中で、農業が地域の暮らしや経済を支える大切な産業であることを実感しました。そこで、地域の特性を活かした農業の振興や整備に携わることにより、この豊かな財産を未来につなげる一助になりたいと考え、近畿農政局を志望しました。

業務説明会の際、管内の各事業地の位置が示された大判の地図を見せていただいたことがとても印象に残っています。スケールが大きく、長く地域に残る仕事であるということにも魅力を感じました。今後、経験を重ねて、一つひとつの業務をより迅速かつ丁寧に行えるよう成長していきたいです。



～支え合う職場風土の中で、安心して成長できる環境～

Q3 職場環境について

事業所は温かい雰囲気、上司がいつも業務の状況等を気にかけてくれており、他部署の方々にも質問等をしやすいです。部署の垣根を越えて声をかけてもらえる環境だと思います。週二回は定時退庁が推奨されており、忙しい時期もメリハリをつけて勤務できています。

また、休暇についても、積極的な取得を促してもらっています。局内外問わず研修の機会も多く、知識に不安があっても、入省後に学ぶ機会に恵まれていると感じます。

総務課情報セキュリティ係長（令和7年度行政系採用）

～PC・情報セキュリティの支援を通じて、安心して働ける職場づくりに貢献～



Q1 今担当している業務は？

職員が業務で使用するPCや情報セキュリティに関する問い合わせ対応が主な担当業務です。問題が解決した際に「ありがとうございました」と言ってもらえる瞬間が、何よりの励みになっています。

問い合わせの内容は多岐にわたり、時には専門外の内容に対応することもあります。お問い合わせをいただいた職員の業務が止まってしまうことがないよう、関係各所の協力を得ながら、迅速な解決を心がけています。

また、どんな小さなことでも気兼ねなく相談していただけるよう、話し方やメールの文面にも気を配るようにしています。

～技術の力で農業の未来と行政サービスの向上に貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由の一つは、身近にいた農家の方々がどんどん農業から離れている現状を感じていたからです。これまで従事してきた製品開発や設計の経験をスマート農業などに活かし、今まで農業に従事することが難しかった方でも参加しやすい仕組みづくりのお手伝いのできたらと考えております。

今後はスマート農業に関連した業務ができたら嬉しいですが、それ以外にも業務全体の効率化に貢献できたらと考えています。労働人口が減少する中、行政サービスの質を維持しながらいかに効率化を図るかは、あらゆる分野における重要な課題です。小さなことから社会貢献につなげていければと考えております。

皆さんへのメッセージ

全くの未経験者を採用してくれるのだろうかと不安に感じていましたが、今まで取り組んできた仕事に対しての姿勢や熱意が伝わり、採用していただくことができました。経験も大切ですが、何事も意欲的に取り組む姿勢は大切と改めて感じた瞬間です。

また、直接的な農業関係の知識がなくとも、私のように情報セキュリティ関係の業務や広報活動など様々な業務があるため、それぞれの経験や知識を活かす場面に出会えるのではないかと思います。

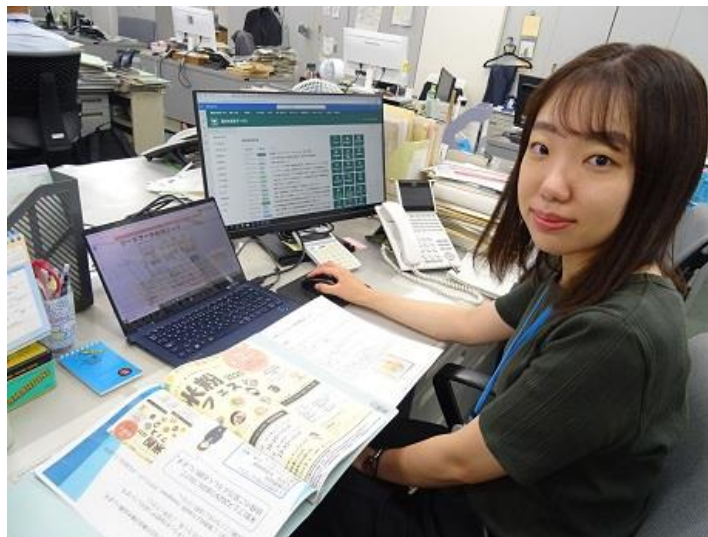
～柔軟な働き方と温かなサポートのもと、いきいきと活躍～

Q3 職場環境について

残業や休暇、テレワークなどの働き方について柔軟に対応していただけるため、小学生の子どもが2人いる私でも、大変働きやすい環境だと感じています。また、上司が業務内容を丁寧に説明・フォローしてくださるので、未経験でも不安なく業務を進めることができています。

研修制度も、業務に関連するものから仕事と家庭の両立に関するものまで多種多様で、興味があれば受講できる点も魅力的です。





～現場の声を大切にしながら、米穀の出荷管理や米粉推進に携わる業務～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、生産振興課にて米穀の出荷、販売事業の届出管理や地域の子ども食堂等への政府備蓄米無償交付の申請受付業務及び近畿管内の米粉の推進業務を行っています。届出の管理や政府備蓄米無償交付の申請受付は、問い合わせや申請を正確に処理、受付することが求められるからこそ、自身の知識をしっかりと身に付けられています。近畿管内の米粉の推進業務では、「米粉フェス」というイベントの事務局運営を行ったり、「米粉商談会」という生産者、製粉会社、実需者等の事業マッチングを行ったりすることで、実際に消費者の意見や米粉関連事業者の思いを聞くことができる業務です。

それぞれのベクトルで事業者の方や消費者の方とお話ができるからこそ、近畿農政局での業務の面白みを実感しています。電話だけでなく、実際に多くの方にお会いすることができる部署だからこそ、現場の思いや声を大切に、それらに寄り添えるよう日々業務に励んでいます。

～現場の声、思いを行政に活かし、 近畿の農林漁業の発展に貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は元々農業関係組織で働いており、そこで見聞きした現場の声、思いをさらに行政に活かしていきたいと思い近畿農政局を志望しました。同じ農業分野でも立場が異なるからこそ、自らの知識、知見も広がり充実しています。今後は、前職で培った知識も活かしながら、近畿の農林漁業の発展に貢献していきたいと考えています。

同じ近畿農政局内でも多種多様な部署があり、2～3年ごとのジョブローテーションもあるため、幅広い視野で業務ができるよう意識していきたいです。

皆さんへのメッセージ

農林水産省と聞くとハードルが高く感じますが、実際は農林漁業や食は私たちの生活に一番身近な存在です。近畿の好きな風景を大切にしたい、この食文化を守りたい、そんな思いがあれば前職経験に関係なくアピールできると思います。私自身、一度は農業関係の仕事から離れたことが、やはり日本の食も農業も文化も大好きで、諦めきれず農林水産省に入省しました。皆さんと近畿の農業を盛り上げていけることを楽しみにしています。

～育児と仕事の両立を最大限支援してくれる 職場環境～

Q3 職場環境について

私自身が一児の母で、育児・仕事を両立する所謂ワーママです。そんな私でも近畿農政局はとても働きやすい環境だと思います。上司も育児と仕事の両立を最大限支援してくれており、現在は保育園の送迎の都合で時差出勤をしながらフルタイムで働くことができています。

仕事のスケジュールリング次第で残業も少なく帰宅することができ、子どもとの時間を大切にしながら、仕事もこなすことができています。



経営・事業支援部経営支援課計画推進係長（令和7年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

国家公務員に固いイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、気さくな方が多く、楽しく仕事ができます。（もちろんみなさんメリハリをもって働いています）

選考採用ということで、仲間ができるかな、と不安に思う方もいるかもしれませんが、心配ご無用です。採用年度の違う選考採用者の飲み会があったり、仲間を増やせる機会が多いです。毎日楽しく、やりがいのある充実した生活を過ごせており、農林水産省に入省して本当に良かったと思っています。少しでも興味があれば、選考採用試験にチャレンジしてください！日本の農林水産業の振興の役に立ちたい！この熱い気持ちがあれば結果はおのずとついてきます！！みなさまと一緒に働けることを心から楽しみにしております。

～補助事業を通じて、地域農業を担う経営体の発展を支援～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、経営支援課という部署で、地域の中核となっていく農家の方の経営改善の手助けをするため、農業用機械・施設の支援を行うための補助金手続き業務を担当しています。

補助金の要件である成果目標設定や、機械等の規模決定根拠の妥当性等の審査を行うため、実施要綱の把握や、補助金の趣旨の理解など勉強しなければいけない点はたくさんありますが、上司、同僚とのコミュニケーションを心がけ、不明点があれば解決方法を模索しながら日々業務に励んでいます。

～憧れの職場で、農林水産業を支える仕事に挑戦したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職の時にご縁があり、2年間出向させていただいたことが一番のきっかけです。その時に一緒にお仕事をした方たちが本当に尊敬できる方たちばかりで、何て素晴らしい職場なんだろうと感銘を受けました。

また、日本の農林水産業の未来を担える仕事に魅力を感じ、絶対に近畿農政局で働きたい！日本の農林水産業の振興の役に立ちたい！と思い志望しました。近畿農政局は数年で部署異動があるので、様々な部署を経験して幅広い知識を習得し、日本の農林水産業の振興の一翼を担っていきたくと考えています。

～挑戦と成長を支える職場環境の中で、やりがいを実感～

Q3 職場環境について

職場環境は、上司には担当業務のスペシャリストの方がおり、本当に頼りになります。分からないところを聞くにしても、まずは調べて自分なりの案を持った段階で相談するように心掛けています。ボトムアップする案件も多いので、自分の意見が反映され、やりがいのある環境です。

休暇については、積極的に取得するよう推進されており、子どもの関係での突発的な休みや計画的な長期休暇なども取得でき、プライベートも充実できる環境です。

また、様々な研修を受講できる機会があるので、より一層の自己研鑽ができます。



和歌山平野農地防災事業所用地第二課補償第2係長（令和7年度農村振興行政系採用）



皆さんへのメッセージ

初めて転職する人は、給料、新しい職場での付き合い、即戦力になれるか等不安かと思いますが、悩まずにまずは選考試験に応募した方がいいです。合格してから考えましょう。

面接では前職の仕事内容、苦労したこと、成功談、失敗談、好きなこと、趣味特技、農業に対する自分の思いを言葉にできるようにして臨んでいただければと思います。

仕事を続けながらの転職活動は大変かと思いますが、面接の前日はしっかりと休んで元気な状態で臨んでください。不安にならずに転職活動を楽しみましょう。

～自然災害による農地被害を未然に防ぐ業務～

Q1 今担当している業務は？

和歌山平野農地防災事業所で和歌山市、岩出市、紀の川市の水路改修や排水機場の建設に向けて土地の買収や借地手続きを担当しています。昔の水路のままだと大雨の時に用水路から水があふれて和歌山の田畑の被害が起きてしまうため、10年に1度の大雨にも対応できるように進めています。また、工事に向けて事前に土地の調査、測量業務の発注も行います。借地期間中は土地のメンテナンスも行い、返還の際には地権者の要望に応えられるように努めています。

仕事をする上で事前準備が非常に大事なため、スケジュール管理に気を付けています。事業所全員で1つの業務に取り掛かっているため、1人で悩むことはありません。

～未来の子ども達に「安心安全な国産食材」を提供し、若い世代を中心に就農促進の手助けをしたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職で様々な問題解決をしていく中でもっと大きくより深い問題にチャレンジしたいと思い志望しました。今後の目標は2点あります。①未来の子ども達に「安心安全な国産食材」を提供したいです。自分たちは国内の新鮮な「食」を食べて育ちました。今後も継続的に提供できる環境づくりに貢献したいです。②若い世代を中心に働き手となり得る人の就農促進の手助けをしたいと考えてます。これらを達成するために、農業の基盤整備に携わっていきます。

～残業時間が少なく、休暇が取りやすいのでプライベートが充実できる～

Q3 職場環境について

年上年下関係なく和気あいあいとしています。和歌山平野農地防災事業所は、職場の真横に産直市場があるので、梅雨は梅、夏は桃、冬は柑橘類を買う人が多いです。1年を通して新鮮な野菜・果物が楽しめます。

月2回完全定時退庁日があります。上司が旗振りをしていまずので定時で帰りやすいです。また、残業時間が少なく、休暇が取りやすいので自分の時間に費やすことができプライベートが充実できるかと思います。



総務課サービス・管理係長（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

農政局の仕事は、日本の「食」と「地域」の未来をダイレクトに支える、非常にやりがいとスケールの大きい仕事です。地方公務員や民間企業など、これまでのキャリアが何であれ、そこで培った独自の視点や専門性は必ず現場で活かすことができます。

大切なのは「この地域の農業をどう変えたいか」「生産者や地域のために何ができるか」という熱意です。面接や書類作成で悩むこともあるかと思いますが、自分のこれまでの歩みに自信を持って、その熱い想いをぶつけてみましょう。皆さんと一緒に働ける日を心から楽しみにしています。

～職員一人ひとりが安心して成長できる職場環境づくりを支援～

Q1 今担当している業務は？

現在担当している業務は、サービス・管理係として、職員が就業規則や法令を守り、規律正しく、安全に働くための勤務状況や行動を管理する業務や研修を担当しています。具体的には、勤務・勤怠の管理、サービス規律の保持（職員の倫理、兼業の申請・承認事務等）、研修の実施に関する事務を行っています。

「サービス管理」と「研修」の2つの業務を行うことで、規律を浸透させ、人を育てるという一つの大きなサイクルとして繋がると実感しています。違反を取り締まる「守り（サービス）」だけでなく、職員のスキルやマインドを伸ばす「攻め（研修）」の両面から組織を支え、健全性と成長を同時にバックアップしているという高い貢献度を得られています。

～国と地域をつなぐ架け橋として、地域農業の発展に貢献～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職では、地方公務員として、行政の立場から地域住民の課題解決に奔走してきましたが、農業問題の深刻化に直面する中で、一自治体のリソースだけでは解決が難しい広域的な課題を痛感しました。そこで、国の施策を地域にダイレクトに浸透させ、より大きなスケールで、より広い視野から市町村の枠を超えて地域農業を支えたいと思い、志望しました。

今後は、現在の業務のみならず、市町村や生産者が国の支援事業（補助金等）を円滑に活用できるよう、申請支援や制度の周知をリードしたいです。現場が今何を求めているかを的確に汲み取り、国の政策を地域の現実に即した形で執行する頼られる相談役として活躍したいです。

～相談しやすい職場の雰囲気と柔軟な働き方のもと、安心して成長できる環境～

Q3 職場環境について

分からないことがあった際には、上司や先輩方に聞きやすい雰囲気があり、業務の対応についても気軽に相談できるため、安心して業務に取り組める環境です。

また、積極的に休暇を取得することを周知されていることもあり、プライベートの時間を確保しやすい環境だと思います。働きやすい職場とは何かを常に考え、フレックスタイムやテレワーク等の働き方も増えています。



経営・事業支援部輸出促進課輸出証明支援係長（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

私は、前職が別の職種のため、すべてが未経験に近い状態での入省となりましたが、自分の強みや日本の農林水産業への思いなど、未経験でも貢献できる点を面接で伝えることが大事だと思います。また、近畿農政局は年齢層が高めな傾向ですので、ExcelやPCに少しでも詳しいと非常に重宝されると思います。

一緒に日本の農林水産業を盛り上げるお手伝いをしていけたらと思いますので、少しでも興味を持てば、苦手意識を持たず、是非挑戦してみてください。

～日本の農林水産物・食品の輸出をフォローアップする業務～

Q1 今担当している業務は？

現在、輸出促進課において、日本の農林水産物・食品の輸出目標である2025年に2兆円、2030年に5兆円を達成するため、近畿農政局管内の輸出に取り組んでいる、取り組みたい事業者へのフォローアップ業務を主に行っています。様々な事業者との意見交換や相談の場に立ち合わせていただき、少しでも力になれるように日々勉強しながら業務にあたっています。

まだまだ分からないことが多い状況ですが、苦手意識を持たず、何事も前向きに業務に取り組むようにしています。

～輸出入の現場で様々な悩みがあると痛感、より幅広く支援したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由は、前職で主に水産物の輸出入に携わっていた際、各事業者が様々な業務や手続きにおいて悩みを抱えていることを痛感し、より幅広くお手伝いをするのができないかと考えたことがきっかけです。

2、3年ごとに異動があるため、今後は輸出だけでなく、農林水産業に関わる業務を幅広く経験し、自分の強みを活かしながら、日本の農林水産業の発展に貢献していきたいです。

～新たな知識の習得をしたい方は積極的に活用できる環境～

Q3 職場環境について

業務の進め方はもちろん、専門用語や文書の作成方法も、今までとは大きく異なり、社会人経験があっても戸惑うことが多いですが、不明点や不安なことは、上司や同僚に気軽に聞ける環境なので、非常にありがたく感じています。

また、私自身子どもが小さく、突発的に休暇が必要なこともあるのですが、課内で休暇を積極的に取るように周知されており、休暇は取得しやすい環境だと思います。

本省主催の研修に参加することもでき、新たな知識の習得をしたい方は積極的に活用できる環境だと思います。



経営・事業支援部食品企業課連携係長（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

私は入省前に説明会のほか、近畿農政局主催の「和食・食文化シンポジウム」や「食育セミナー」などに参加し、入省後に取り組みたい仕事のイメージが明確になりました。面接でもその気持ちを伝えることができましたので、各部開催のセミナーに参加するのも良いかと思います。

また、私には3人の子供がおりますので、農林水産省のビジョンステートメントである「生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちに継承していく」仕事に携わることができて、母としてもやりがいがあり、入省して良かったと感じております。

ぜひ農林水産省で、一緒に日本の未来の「食」を創りましょう！

～関西の食や食文化の振興につながるよう心掛けながら奮励～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、食品企業課で「関西 食の「わ」プロジェクト」を担当しております。このプロジェクトでは、関西の農林水産業や食品産業の振興・次世代への継承を図るため、関西の食や食文化を国内外に発信する活動を募集しています。私は、この募集に係る業務や、「関西 食の「わ」プロジェクト」として認定された活動を、HP、Instagram、メルマガ等で御紹介しており、関西の食や食文化の振興につながるよう心掛けながら奮励しております。

日々の業務では、多種多様な業界・世代の方々からお話を聞き知見を増やせる楽しさと、プロジェクトを推進していくやりがいを感じております。

～「食」を通じて国民の食卓を支え、「食育」により国民の健康寿命延伸に貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

「食」を通じて国民の食卓を支え、「食育」により国民の健康寿命延伸に貢献できる仕事に強い魅力を感じ、志望いたしました。

現在担当している「和食文化の保護・継承」は、健康食ともいわれる「和食」の普及を推進することで国民の長寿や健康維持にも役立つと考えております。

今後は、前職での商品開発や管理栄養士としての経験を活かして、現場から国民のニーズを収集し、消費者に寄り添った施策を行えるよう必要な判断力やスキルを身に付けていきたいです。

～幅広い政策課題に係る業務に対応できるよう、セミナーや研修制度が充実している～

Q3 職場環境について

職場は気さくで優しい方が多く、業務についても丁寧に教えてくださり、尊敬する上司や先輩にも恵まれ大変感謝しております。

また、農林水産省は「食」を中心とした産業政策・地域振興・インフラ・文化・外交等の幅広い政策分野を総合的に担っており、同じ課内でも多岐にわたる業務があるということを感じました。職員はこれらの幅広い政策課題に係る業務を通して国民の生活を支えており、この多分野の業務に対応できるよう、各種セミナーや研修制度も充実しています。

私も自己研鑽のため、積極的に参加しております。



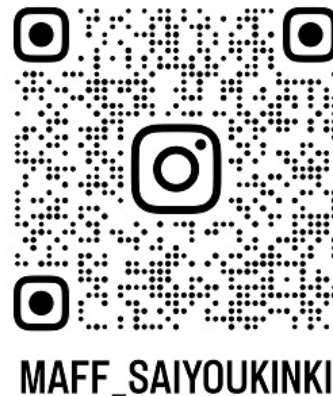
ご覧いただきありがとうございました！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HP、採用担当Instagram、採用担当Xに掲載しています。

近畿農政局HP



採用担当Instagram



採用担当X



- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第1係
Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp
Tel: 075-414-9032

ご不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。